

# 令和元年度 事業報告

## I 法人の概況

### 1. 設立年月日 昭和49年2月8日

協会は、昭和49年2月8日に(社)青森県家畜畜産物衛生指導協会として設立。平成15年7月1日に(社)青森県家畜畜産物衛生指導協会を存続法人として、(社)青森県畜産会及び青森県肉用牛協会が再編統合し名称を「(社)青森県畜産協会」に変更した。

平成20年6月1日に青森県草地畜産協会と統合。更に平成22年4月1日に(社)青森県畜産物価格安定基金協会と合併した。

平成25年4月1日に青森県知事から移行認可を得て「一般社団法人青森県畜産協会」に移行した。

### 2. 定款に定める目的

協会は、畜産経営の安定向上及び安全で良質な畜産物の生産と流通に関する事業を行い、畜産の振興に寄与することを目的とする。

### 3. 定款に定める事業内容

- (1) 畜産に係る生産の振興及び経営技術の指導に関する事業
- (2) 畜産に係る調査・研究及び情報の収集・提供並びに畜産指導員の教育及び養成に関する事業
- (3) 畜産農家等が組織する団体の運営の指導に関する事業
- (4) 草地基盤や自給飼料に係る調査・指導及び放牧促進に関する事業
- (5) 畜産物に係る普及啓発及び流通・消費拡大に関する事業
- (6) 経営安定のための肥育牛及び肥育豚に係る生産者積立金及び補填金の交付等に関する事業
- (7) 肉用子牛生産安定等特別措置法に基づく肉用子牛生産者補給金の交付等に関する事業
- (8) 家畜の健康保持等に係る技術指導及び予防接種並びに家畜伝染病の発生時における損失補填金の交付等に関する事業
- (9) 農場の生産衛生の指導及び検査並びに畜産物の安全性確保に関する事業
- (10) その他協会の目的を達成するために必要な事業

### 4. 所管官庁に関する事項 青森県 農林水産部 畜産課

## 5. 会員の状況

区 分	年度当初 会員数	令和元年度		年度末 会員数	備 考
		増	減		
正 会 員	84	0	0	84	
賛助会員	4	0	0	4	
計	88	0	0	88	

## 6. 主たる事務所 青森市中央二丁目1番15号（畜連ビル2F）

## 7. 役員に関する事項

### (1) 役員の変動

区 分	氏 名	所 属 団 体	年月日
任期満了 退任・理事	田 嶋 政 榮	青森県農業共済組合 理事	R1.6.25
任期満了 退任・監事	澤 田 恵	三戸畜産農業協同組合 組合長	R1.6.25
就任・理事	千 葉 準 一	青森県農業共済組合 理事	R1.6.25
就任・理事	金 子 春 雄	(一社)青森県配合飼料価格安定基金 協会 理事長	R1.6.25
辞任・理事	佐々木 福 栄	全国農業協同組合連合会青森県本部 運営委員（八戸農協長）	R1.7.23
辞任・理事	三 浦 正 名	三八畜産衛生協議会 副会長（五戸町長）	R1.7.4
就任・理事	山 美 喜 正	全国農業協同組合連合会青森県本部 運営委員（八戸農協長）	R1.10.8
就任・理事	松 尾 和 彦	三八畜産衛生協議会 理事（三戸町長）	R1.10.8

## 8. 職員に関する事項

前期末 職員数	増	減	本年度末 職員数	備 考
14	2	3	13	
	花田 美佳 田名部 祥子	太田 亜夢子 成田 由姫 横山 恭子		(正職員 5名、嘱託 4名、臨時 4名、 非常勤を除く。)

## 9. 総会及び理事会の開催に関する事項

### (1) 第1回理事会

期日場所：令和元年5月24日、ラ・プラス青い森

〔議決事項〕

- 第1号議案 平成30年度事業報告及び計算書類等の承認について
  - 第2号議案 令和元年度会費及び賛助会費の額並びに徴収方法について
  - 第3号議案 令和元年度借入金限度額及び取引金融機関の承認について
  - 第4号議案 令和元年度事業計画書及び収支予算書等の決定について
  - 第5号議案 任期満了に伴う役員候補者について
  - 第6号議案 獣医師養成確保修学資金貸与事業 実施規程細則の一部変更について
  - 第7号議案 第16回定時総会の開催期日及び提出議案について
  - 第8号議案 第2回理事会の開催について
- 〔報告事項〕 (1) 業務の執行状況について  
(2) 公益目的支出計画実施報告書について

(2) 理事会（書面議決）

期日：令和元年6月20日

- 〔議決事項〕 令和元年度（第16回）定時総会に提案する役員候補者のうち監事 澤田 恵 氏（三戸畜産農業協同組合推薦）の提案の留保について

(3) 第16回定時総会

期日場所：令和元年6月25日、ラ・プラス青い森

〔議決事項〕

- 第1号議案 平成30年度事業報告及び計算書類の承認について
- 第2号議案 令和元年度会費及び賛助会費の額並びに徴収方法について
- 第3号議案 令和元年度事業計画書及び収支予算書の報告について
- 第4号議案 役員の改選について

(4) 第2回理事会

期日場所：令和元年6月25日、ラ・プラス青い森

〔議決事項〕

- 第1号議案 会長、副会長及び専務理事の選任について

(5) 第3回理事会

期日：令和元年9月13日

〔議決事項〕

- 第1号議案 理事の選任について
  - (1) 山美喜正氏を理事に選任する  
(全農青森県本部推薦の運営委員、八戸農業協同組合長)
  - (2) 松尾和彦氏を理事に選任する  
(三八畜産衛生協議会 理事)
- 第2号議案 臨時総会の開催について（書面議決）

(6) 令和元年度臨時総会（書面表決）

期日場所：令和元年10月8日、(一社)青森県畜産協会

〔議決事項〕

第1号議案 役員(理事)の選任について

(7) 第4回理事会

期日場所：令和2年2月25日、ラ・プラス青い森

〔議決事項〕

第1号議案 令和元年度事業計画書及び収支予算書の変更(補正)について

第2号議案 令和2年度事業計画書及び収支予算書について(暫定)

第3号議案 諸規程の一部変更について

第4号議案 肉用子牛生産者補給金制度に係る業務規程の一部変更及び事業推進について

第5号議案 令和2年度各種事業手数料について

第6号議案 理事の取引(利益相反)の承認について

〔報告事項〕 (1) 業務の執行状況について

(2) 令和元年度青森県公社等経営評価委員会評価結果について

## 10. 監査会等の実施状況

(1) 監事会

期日場所：令和元年5月16日、青森県畜産協会 会議室

監査事項：平成30年度会計事務及び業務に関する監査について

(2) 三上公認会計士事務所による会計事務等の調査・指導

① 令和元年5月14日、平成30年度決算に係る財務調査・指導について

② 令和元年11月25日、令和元年度中間財務調査・指導(前期)について

③ 令和2年3月5日、令和元年度中間財務調査・指導(後期)について

④ 令和2年3月31日、予防事業ワクチン在庫の現地確認調査(十和田市、八戸市)

## 11. 基金に関する事項

(1) 預り運営基金(正会員等63団体)

(単位：円)

区分	価格安定			家畜衛生	合計
	肉用子牛	肉豚	(計)		
期首残	259,260,000	178,100,000	437,360,000	37,260,000	474,620,000
増減	0	0	0	0	0
期末残	259,260,000	178,100,000	437,360,000	37,260,000	474,620,000

注：肉用子牛に全国肉用牛振興基金協会からの5,000,000円を含む

(2) 寄託金

(単位：円)

団体名	区分	家畜衛生	備考
地区家畜衛生推進協議会	期首残	26,244,000	

(5地区)	増	0	
	取崩	△ 4,374,000	
	期末残	21,870,000	

## 12. 会員名簿

### (1) 正会員

R2.3.31 現在

No.	会 員 名	No.	会 員 名
1	青 森 県	43	(公社)青森県獣医師会
2	青 森 市	44	(一社)青森県配合飼料価格安定基金協会
3	弘 前 市	45	(一社)青森県養豚協会
4	八 戸 市	46	青森県養鶏協会
5	黒 石 市	47	青森農業協同組合
6	五所川原市	48	つがるにしきた農業協同組合
7	十和田市	49	ごしょつがる農業協同組合
8	三 沢 市	50	つがる弘前農業協同組合
9	む つ 市	51	津軽みらい農業協同組合
10	つ が る 市	52	十和田おいらせ農業協同組合
11	平 川 市	53	ゆうき青森農業協同組合
12	平 内 町	54	おいらせ農業協同組合
13	今 別 町	55	八戸農業協同組合
14	外ヶ浜町	56	東青畜産農業協同組合
15	蓬 田 村	57	三戸畜産農業協同組合
16	鱒ヶ沢町	58	五戸畜産農業協同組合
17	深 浦 町	59	三本木畜産農業協同組合
18	藤 崎 町	60	青森県七戸畜産農業協同組合
19	鶴 田 町	61	田名部畜産農業協同組合
20	中 泊 町	62	大間町畜産農業協同組合
21	野 辺 地 町	63	深浦畜産農業協同組合
22	七 戸 町	64	袖平牧野畜産農業協同組合
23	六 戸 町	65	田代牧野畜産農業協同組合
24	横 浜 町	66	深持牧野畜産農業協同組合
25	東 北 町	67	奥瀬牧野畜産農業協同組合
26	おいらせ町	68	法量牧野畜産農業協同組合
27	六ヶ所村	69	東青地区家畜衛生推進協議会
28	大 間 町	70	三八畜産衛生協議会
29	東 通 村	71	上十三地区家畜衛生推進協議会
30	佐 井 村	72	むつ地区家畜衛生推進協議会
31	三 戸 町	73	津軽地区家畜衛生推進協議会
32	五 戸 町	74	(公社)あおもり農林業支援センター

33	田 子 町	75	中部上北広域事業組合
34	南 部 町	76	つがる市屏風山畜産組合
35	階 上 町	77	(農) 和平高原開発農場
36	新 郷 村	78	(農) 北栄トラクター利用組合
37	青森県農業協同組合中央会	79	(農) 吹越台地飼料生産利用組合
38	全国農業協同組合連合会青森県本部	80	青森シャモロック生産者協会
39	全国共済農業協同組合連合会青森県本部	81	青森県養蜂協会
40	青森県農業共済組合連合会	82	雪印種苗(株)十和田営業所
41	青森県畜産農業協同組合連合会	83	ヤンマーアグリジャパン(株)東日本カンパニー北東北営業部青森事務所
42	青森県軽種馬生産農業協同組合	84	みらいのアグリ(株) (北原電牧)

(2) 賛助会員

No.	会 員 名	No.	会 員 名
1	青森県農業信用基金協会	3	津軽地域馬肉振興協議会
2	青森県動物薬品器材協会	4	サージミヤワキ(株)札幌営業所

13. 役員名簿

R2. 3. 31 現在

役 職	氏 名	区分	所 属 団 体
会 長	小山田 久	非常勤	十 和 田 市 市 長
副 会 長	山 崎 憲 久	非常勤	上十三地区家畜衛生推進協議会 会長
専務理事	菅 慶一郎	常 勤	学 識 経 験 者
理 事	山 美 喜 正	非常勤	全国農業協同組合連合会青森県本部 運営委員
理 事	小 又 勉	非常勤	七 戸 町 町 長
理 事	戸 田 衛	非常勤	六ヶ所村 村長
理 事	小山田 富 弥	非常勤	(公社)青森県獣医師会 会長理事
理 事	松 尾 和 彦	非常勤	三八畜産衛生協議会 理事 (三戸町長)
理 事	福 島 弘 芳	非常勤	津軽地区家畜衛生推進協議会 会長 (つがる市長)
理 事	山 内 正 孝	非常勤	青森県畜産農業協同組合連合会 代表理事会長
理 事	布 施 久	非常勤	(一社)青森県養豚協会 会長理事
理 事	酒 井 一 由	非常勤	ゆうき青森農業協同組合 代表理事組合長
理 事	千 葉 準 一	非常勤	青森県農業共済組合 理事
理 事	金 子 春 雄	非常勤	(一社)青森県配合飼料価格安定基金協会 理事長
代表監事	白 戸 勝 一	非常勤	学 識 経 験 者

## Ⅱ 事業別実績概要

### 一般会計

#### 1 経営支援対策 (継続1)

##### 1. 補助事業

###### (1) 肉用子牛生産者補給金制度運営体制整備強化事業 (機構補助)

###### ① 肉用子牛生産者補給金制度運営適正化事業 (事業費 7,148,650円)

###### ア 制度運営適正化推進

肉用子牛生産者補給金制度に係る業務の適正な実施を図るため、肉用子牛の個体識別、個体登録及び販売・保留・異動の確認等事務推進に努めた。また、家畜市場における肉用子牛の取引情報を収集し、独立行政法人農畜産業振興機構へ報告を行った。

###### イ 指定協会調査指導

協会の業務規程に基づき、協会が事務を委託する者が行う委託事務の執行についての点検、調査及び指導を実施し、肉用子牛生産者補給金制度の適正な実施体制の確保に努めた。

###### ② 指定協会運営体制支援事業 (事業費 6,018,398円)

肉用子牛生産者補給金制度の業務を円滑に遂行するため、協会の運営体制の充実を図った。

###### (2) 肉用牛経営安定対策補完事業 (機構補助・事業費 28,599,012円)

肉用牛生産が中山間地域の基幹的な農業部門のひとつとして、地域経済の活性化に重要な役割を果たしていることを踏まえ、繁殖雌牛の増頭の取組や高齢化等に対処するため肉用牛ヘルパー組織を支援し、多様な肉用牛経営の実現を図った。

###### ① 中核的担い手育成増頭推進 (補助単価：80,000円、100,000円)

計画的に高能力の肉専用種繁殖雌牛を増頭した者への奨励金の交付  
(50戸、183頭、17,460,000円)

###### ② 遺伝的多様性に配慮した改良基盤確保 (補助単価：60,000円・90,000円)

多様な系統群の確保による改良基盤に必要な繁殖雌牛を導入し、繁殖農家に貸付けた場合の奨励金の交付 (26戸、28頭、2,520,000円)

###### ③ 優良繁殖雌牛導入支援 (補助単価：40,000円、50,000円)

優良な繁殖雌牛を導入し繁殖農家に貸し付けた場合の奨励金の交付  
(12戸、14頭、700,000円)

###### ④ 肉用牛ヘルパー推進 (補助率：1/2)

肉用牛ヘルパー利用組合が実施した活動経費に対する補助 (2団体 6,598,009円)

###### ⑤ 肉用牛振興推進指導

推進会議等の開催、事業推進指導の実施 (1,321,003円)

###### (3) 地域畜産支援指導等体制強化事業 (地全協補助・事業費 8,700,000円)

畜産農家の安定的経営を目途に基幹職員を配置し、国及び県等の各種事業の推進による畜産指導を効果的に行う体制を整備強化した。

###### ア 畜産経営の支援体制強化 (内数で事業費 2,796,760円)

イ 地域畜産の活性化、安全かつ安定的な食の提供

ウ 馬事普及啓発の推進体制の強化

(4) 堆肥利用ネットワーク推進事業（地全協補助・(3)の内数で事業費 574,574円）

耕畜連携のもと、堆きゅう肥の利用促進を図るため普及啓発活動を実施した。

ア 相談窓口の設置 2件、畜産堆肥展示会 4回

イ 畜産堆肥講習会 1回

ウ 堆肥分析 14件

(5) 衛生対策推進事業（地全協補助・(3)の内数で事業費 113,680円）

野生獣において、地域の畜産団体等との連携体制の整備を図るとともに、効果的衛生実態調査の検討を図った。

(6) 若手及び女性農業者支援体制強化事業（地全協補助・(2)の内数で事業費 1,694,317円）

畜産をめぐる厳しい情勢に対応するため、女性や若手の経営意識を高め、地域一丸となって生産技術の向上に努める必要があることから、畜産に携わる女性や若手経営者を中心とした研修会等を開催し、生産技術の向上を図った。

ア 酪農女性部(R1.7.9 野辺地町・七戸町) 45名

イ 東通村肉牛婦人部(R1.11.19 むつ市) 15名

ウ 第17回モーモー母ちゃんの集い(R2.2.4 五戸町) 59名

エ 養豚担い手女子部(R2.2.21 三沢市) 9名

オ 若手育成養豚経営勉強会(三沢市(1回)、十和田市(1回)) 16名

カ 畜産に携わる女性の活躍を支援する地域のリーダー候補者の育成のため研修会(2回、28名)の開催や県内や県外での交流会(4回、54名)へ参加して情報交流を図った。

(7) 県産食肉普及拡大推進事業（地全協補助・(3)の内数で事業費 1,175,891円）

県産食肉等(牛、鶏、ハチミツ)について、消費拡大及び普及啓蒙を図るため消費者等に向けたセールスプロモーション等を開催した。(9回)

ア 県産牛試食(RAB祭り) 20,000名(青森市)

イ 短角牛のPR活動:4回(十和田市)

ウ 青森シャモロックのPR活動:2回(青森市、六戸町)

エ 県産はちみつのPR活動:1回(八戸市)

オ 県産牛食べ比べ:1回、100名(八戸市)

(8) 食育等の推進事業（地全協補助・(2)の内数で事業費 966,212円）

消費者等を対象に県産畜産物を使った加工研修会及び食育教室を開催した。また、牛にふれあう酪農体験を実施した。

① 酪農体験、1回、弘前市「弥生いこいの広場」来場者1,500名

② 親子バスツアー(畜産を学びふれあう体験) 十和田市、新郷村 23組 54名

③ 生産者と消費者との懇談会 八戸市 参加者34名(生産者20名、消費者14名)



(9) 地域畜産振興事業（地全協補助・(3)の内数で事業費 586,487円）

地域の畜産振興を図るため各地域の畜産共進会等に支援を行った。

(10) 馬事活性化推進事業（地全協補助・(3)の内数で事業費 792,079円）

地方競馬の活性化、畜産の普及啓発と県内畜産物の消費拡大を図るため、八戸サラブレッド市場、盛岡競馬及び水沢競馬場の開催に合わせ畜産フェアを開催し、県産畜産物を配布。八戸市（7月3日）100個、盛岡市（10月6日）200個、水沢市（8月25日）200個

(11) 畜産特別資金等推進指導事業（中央畜産会補助・事業費 6,399,804円）

畜産特別資金が必要であると思慮される経営体の早期把握に努め、事業の適正かつ円滑な実施を図るため、融資機関及び借入者に対する必要な指導その他必要な支援を行った。

① 計画作成指導 [貸付者 1戸 (R1.5月)]

② 改善計画見直し指導

資金名	借入者	経営分析による指導	現地指導
(新) 大家畜特別支援資金	2戸	2戸	2戸
畜産経営改善緊急支援資金(大家畜)	4戸	4戸	4戸
計	6戸	6戸	6戸

③ 改善計画達成指導

資金名	借入者	経営分析による指導	現地指導	濃密指導
畜産経営維持緊急支援資金	5戸	5戸	5戸	1戸

(12) 畜産女性経営者の地域育成支援事業（中央畜産会補助・事業費 1,257,830円）

畜産を核とした地域活性化のためには、畜産に携わる女性経営者の育成が求められており、経営の中核的な役割や経営の企画立案に関与できるような女性経営者を目指しており、研修会や畜産女性同士の連携強化を図った。

視察・研修会 1回、経営分析勉強会 1回、地域間連携 2回

## 2. 受託事業

(1) 肉用牛肥育経営安定交付金制度（機構委託・事業費 10,451,266円）

肉用牛肥育経営の収益性が悪化した場合に、粗収益と生産費との差額の9割を補填することにより、肉用牛肥育経営の安定を図る制度で、肉用牛生産基盤の拡大に寄与するものである。

協会は、積立金管理者として機構からの業務委託により、当該業務を実施し、今年度は、肉専用種、交雑種及び乳用種について、粗収益が生産費を下回ったため、平成31年2月期（平成31年4月交付）から令和2年1月期（令和2年3月交付）において補填金の交付を行い経営の安定に資した。

① 対象家畜：

区分	肉専用種	交雑種	乳用種	計
積立金取扱頭数 在庫牛再納付	1,295頭	1,442頭	779頭	3,516頭

	通常牛取扱	5,254 頭	6,054 頭	14,365 頭	25,673 頭
	計	6,549 頭	7,496 頭	15,144 頭	29,189 頭

② 交付条件：1 頭当たりの生産費と粗収益との差額分の 9 割

③ 補填金の交付及び基金管理に要する事務

④ 事業推進委託等（事務委託先： 12 団体）

⑤ 補填金の交付状況 (単位：円)

区 分	肉専用種	交 雑 種	乳 用 種	計
令和元年2～3月期	1,574,028	0	180,155,431	181,729,459
令和元年4～2年1月期	22,519,834	7,960,023	495,308,954	525,788,811
計	24,093,862	7,960,023	675,464,385	707,518,270

⑥ 令和元年度 生産者積立金単価

区 分	肉専用種	交 雑 種	乳 用 種	備 考
1頭当たり積立金	8,000円	17,000円	19,000円	

(2) 肉豚経営安定交付金制度（機構委託・事業費 455,101円）

肉豚経営の収益性が悪化した場合に、粗収益と生産費の差額の 9 割を補填することにより肉豚経営の安定を図る制度であり、事業実施主体となる養豚生産者及び関係団体に対し事業説明会を開催したほか、事業内容の問い合わせに対応した。

また、1 戸の養豚生産者と申請事務等委託契約を締結し、生産者が提出する書類の作成代行等の事務を行った。

(3) 畜産経営支援体制確立事業（県委託・事業費 3,000,000円）

高度な技術を基盤とした生産性の高い畜産経営体を広範かつ急速に育成するため、畜産経営体の経営・生産技術の高度化に対する支援・指導を行い畜産の振興を図った。

- ① 地域指導相談窓口の配置 3か所（青森市2か所、六ヶ所村）  
相談件数 65件
- ② 畜産経営技術の総合支援個別支援 88件、セミナー等の開催4回
- ③ ホームページによる情報提供 12回更新（家畜市場成績、県内畜産イベント情報等）
- ④ 経営情報のデータベース蓄積と経営支援

（繁殖カルテ作成配布 569戸、肉用繁殖雌 5,352頭）

(4) 畜産現場における障がい者雇用促進支援事業（中央畜産会委託・事業費 1,419,162 円）

障がい者の畜産現場への雇用を促進するため、畜産関係者と福祉関係者のマッチングを行った。また、畜産現場の見学会 3 回、畜産現場の作業体験 6 回行った結果、新たに障がい者を雇用する 1 畜産経営体と就職者 2 名を確保した。

(5) 畜産クラスター全国実態調査事業（中央畜産会委託・事業費 240,274 円）

畜産クラスターの取組推進に係る経営体の指標作成のための調査を行った。(3戸)

(6) 畜産・酪農収益力強化整備等特別対策事業（畜産クラスター事業・機械導入事業）

（中央畜産会委託・事業費 4,234,872 円）

畜産クラスター計画に位置づけられている地域の中心的な経営体に対し、収益力強化等に必要の機械装置の導入支援を行った。

区 分	補助金配分件数	うち参加申請件数	うち承認件数	備 考
平成 30 年 第 1 回目	229 件	186 件	186 件	
平成 30 年 第 2 回目	3 件	3 件	1 件	
令和元年	28 件	15 件	5 件	
計	260 件	204 件	192 件	

令和元年度の補助金配分額	100,002,000 円
（28 年度・29 年度・30 年度・元年度合計の配分額	1,573,897,183 円）
上記の事業を実施した県内の畜産クラスター協議会数	5 協議会

(7) 畜産経営体生産性向上対策事業（畜産 ICT 事業）（中央畜産会委託・事業費 726,375 円）

畜産を営む者における労働力軽減・省力化及び飼養管理技術の高度化に資する機械装置の導入支援を行った。

区 分	総事業費	国庫補助金	その他	備 考
機械装置導入事業	27,229,160	12,443,500	14,785,660	

(8) 畜産関係団体調整機能強化事業（中央畜産会委託・事業費 937,712 円）

畜産協会内に経営技術、制度資金等各種相談に応ずる専門家（畜産コンサルタント、畜産クラスターコーディネーター、HACCP指導相談員等）を活用した畜産経営窓口を設置した。

(9) 酪農労働省力化推進施設等緊急整備対策事業（楽酪GO事業）

（中央畜産会委託・事業費 884,545 円）

酪農家による省力化機械装置の導入と一体的な施設の整備や、複数の酪農家がまとまって搾乳等の作業を集中管理するモデル的な集合搾乳施設の設置に係る普及業務を行った。

区 分	総事業費	国庫補助金	その他	備 考
機械装置導入事業	72,160,000	32,800,000	39,360,000	

(10) 貸付事業指導等事業（畜産近代化リース協会委託・事業費 467,664 円）

畜産経営の近代化と体質強化を図るため、畜産関係機械施設のリース事業により整備したトラクター等飼料生産利用設備及び生乳生産合理化施設の利用状況調査・指導並びに新規開拓に係る調査を行った。

① 利用状況調査・指導：13戸、基数：22基

② 新規開拓調査：3団体

(1 1) 草地難防除雑草駆除対策事業(日本草地畜産種子協会委託・事業費 480,447円+22,463円)  
草地の生産性向上を図る上で課題となっている難防除雑草の駆除対策として農業者団体が  
行う難防除雑草の繁茂した生産性の低い草地から高位生産草地への転換を図るための支援を  
行った。(調査分析:1/2以内、草地転換:上限17千円/10a)、  
草地転換面積 41.9ha、事業参加戸数 11戸

(1 2) 飼料用稲の栽培・給与実態調査事業(高タンパク飼料用稲調査事業)  
(日本草地畜産種子協会委託・事業費 400,528円)(新規)  
飼料用稲の栽培・給与に関する現場段階における実態及び問題点把握のため、飼料用稲の  
生産・利用農家等を対象としてアンケート調査を行った。

### 3. 協会単独事業(自主事業)

(1) 肉用牛肥育経営安定対策推進事業(事業費 5,221,666円)  
肉用牛肥育経営安定対策事業の円滑な推進を図るために事務委託先12団体に対し、委託事  
務に要する経費等を助成した。

(2) 畜産振興対策事業(事業費 502,064円)

① 広報事業

生産技術の普及向上のため、各地域の畜産共進会に副賞を授与した。また、「畜産協会だよ  
り」を2回(600部)発行し配布した。

② その他畜産振興に対する支援を行った。

### 4. 馬事畜産振興対策事業

青森県馬事畜産振興協議会を通じて盛岡競馬場の観戦ツアーを開催した。

盛岡競馬場観戦ツアー(R1.10.20 岩手県盛岡市)69名

### 5. 養蜂対策事業

青森県養蜂協会の事務局として「はちみつ品評会」を開催し、はちみつの品質向上を図った。

はちみつ品評会(R1.10.8 青森市)出品数72点

## 特別会計

### 1. 補給金事業

(1) 肉用子牛生産者補給金制度(機構補助・積立助成金 11,152,800 円、補てん金 2,880,600 円)  
肉用子牛の再生産の確保と農業経営の安定を図るため肉用子牛の価格が低落し国の定める保証基準価格を下回った場合にその価格差を補填する肉用子牛生産者補給金制度を実施した。

令和元年度は第6業務対象年間の5年目であり、日本短角種を含むその他肉専用種において生産者補給金が発動された。子牛の個体登録頭数では、その他肉専用種及び乳用交雑種が前年度より増加し、その他肉専用種は前年比111%の99頭、乳用交雑種は前年比109%の1,816頭となった。他の品種は前年より減少し、全体で前年比89%の8,334頭となった。

#### ① 生産者補給金交付契約締結状況

(単位：戸)

区分	個人	農協	農事組 合法人	株式 会社	有限 会社	市町村	その他	計
27年度末	742	3	2	4	4	1	0	756
28年度末	745	3	2	5	4	1	0	760
29年度末	747	3	2	5	4	1	0	762
30年度末	750	3	2	5	4	1	0	765
元年度末	760	3	2	6	4	1	0	776

#### ② 事務委託先契約締結状況

(単位：件)

区 分	総合農協	専門農協	そ の 他	計
27年度末	8	5	1	14
28年度末	8	5	1	14
29年度末	8	5	1	14
30年度末	8	5	1	14
元年度末	8	5	1	14

#### ③ 契約肉用子牛個体登録頭数の内訳

(単位：頭)

区 分	黒毛和種	褐毛和種	その他 肉専用種	乳用種	乳用交雑種	計
継続	1,060	0	56	0	7	1,123
新規	3,625	0	43	1,734	1,809	7,211
計	4,685	0	99	1,734	1,816	8,334

## ④ 保証基準価格と合理化目標価格

(単位：円/頭)

品種区分		黒毛和種	褐毛和種	その他肉専用種	乳用種	乳交雑種
保証基準価格	改定前	531,000	489,000	314,000	161,000	269,000
	改定後	541,000	498,000	320,000	164,000	274,000
合理化目標価格	改定前	421,000	388,000	249,000	108,000	212,000
	改定後	429,000	395,000	253,000	110,000	216,000

(注) 改定後の保証基準価格及び合理化目標価格は、令和元年10月1日から適用。

## ⑤ 肉用子牛1頭当たりの生産者積立金及び負担区分

(単位：円)

品種区分	生産者積立金	負担区分		
		農畜産業振興機構	青森県	生産者
黒毛和種	1,200	600	300	300
褐毛和種	4,600	2,300	1,150	1,150
その他肉専用種	12,400	6,200	3,100	3,100
乳用種	6,400	3,200	1,600	1,600
乳交雑種	2,400	1,200	600	600

## ⑥ 生産者積立金造成内訳

(単位：頭、円)

品 種		個体登録頭数	積立金 単価	積立金 所要額	負 担 区 分		
					機 構 (1/2)	青 森 県 (1/4)	生 産 者 (1/4)
黒毛和牛	継続	1,060	1,200	—	—	—	318,000
	新規	3,625	1,200	—	—	—	1,087,500
	計	4,685	—	5,622,000	2,811,000	1,405,500	1,405,500
褐毛和種	継続	0	4,600	—	—	—	0
	新規	0	4,600	—	—	—	0
	計	0	—	—	—	—	0
その他 肉専用種	継続	56	12,400	—	—	—	173,600
	新規	43	12,400	—	—	—	133,300
	計	99	—	1,227,600	613,800	306,900	306,900
乳用種	継続	0	6,400	—	—	—	0
	新規	1,734	6,400	—	—	—	2,774,400
	計	1,734	—	11,097,600	5,548,800	2,774,400	2,774,400
乳用 交雑種	継続	7	2,400	—	—	—	4,200
	新規	1,809	2,400	—	—	—	1,085,400
	計	1,816	—	4,358,400	2,179,200	1,089,600	1,089,600
合 計	継続	1,123	—	—	—	—	495,800
	新規	7,211	—	—	—	—	5,080,600
	計	8,334	—	22,305,600	11,152,800	5,576,400	5,576,400

(注) 個体登録頭数は平成31年1月～令和元年12月分

⑦ 生産者積立金及び生産者積立準備金管理状況

(単位：円)

区分		保証基準価格の品種区分	黒毛和種	褐毛和種	その他肉専用種	乳用種	乳用交雑種	合計		
1 期首 残高	①	生産者積立金	22,089,623	0	5,192,866	90,399,578	22,482,613	140,164,680		
	②	生産者積立準備金	—	—	—	—	—	115,781,986		
	内 訳	③	生産者の負担金充当分	—	—	—	—	—	13,441,663	
		④	県の生産者積立助成金充当分	—	—	—	—	—	102,340,323	
		⑤	機構の生産者積立助成金充当分	—	—	—	—	—	0	
2 生産者積立金積立実績	⑥	生産者積立金純増加額(⑨+⑫+⑮+⑱)	3,898,500	0	747,100	8,323,200	3,264,600	16,233,400		
	⑦	生産者積立準備金からの繰入額(⑩+⑬+⑯)	1,723,500	0	480,500	2,774,400	1,093,800	6,072,200		
	⑧	計	5,622,000	0	1,227,600	11,097,600	4,358,400	22,305,600		
	内	生産者	⑨	負担金	1,087,500	0	133,300	2,774,400	1,085,400	5,080,600
			⑩	生産者積立準備金(③からの繰入額)	318,000	0	173,600	0	4,200	495,800
			⑪	(小計)	1,405,500	0	306,900	2,774,400	1,089,600	5,576,400
	内	県	⑫	生産者積立助成金	0	0	0	0	0	0
			⑬	生産者積立準備金(④からの繰入額)	1,405,500	0	306,900	2,774,400	1,089,600	5,576,400
			⑭	(小計)	1,405,500	0	306,900	2,774,400	1,089,600	5,576,400
	内	機構	⑮	生産者積立助成金	2,811,000	0	613,800	5,548,800	2,179,200	11,152,800
			⑯	生産者積立準備金(⑤からの繰入額)	0	0	0	0	0	0
			⑰	(小計)	2,811,000	0	613,800	5,548,800	2,179,200	11,152,800
			⑱	生産者積立金とすることを指定して寄附又は補助された財産	0	0	0	0	0	0
3 他の資産からの繰入状況等	⑲	特別の積立金から生産者積立金への繰入額	0	0	0	0	0	0		
	⑳	調整積立金から生産者積立金への繰入額	0	0	0	0	0	0		
	㉑	交付した補給金の生産者からの返還額	0	0	0	0	0	0		
	㉒	生産者補給金に充てるための全国協会等からの借入金額	0	0	0	0	0	0		
	㉓	生産者積立金に係る運用果実	30,046	0	7,063	122,586	30,577	190,272		
	㉔	生産者積立準備金に係る運用果実	—	—	—	—	—	46,460		
	㉕	生産者補給金交付額(㉑を含む)	0	0	0	0	0	0		
	㉖	生産者積立金からの借入金返済額	0	0	0	0	0	0		
	㉗	生産者積立金から生産者積立準備金への繰入額	0	0	0	0	0	0		
	㉘	生産者積立金からの返還額(生産者分)	0	0	0	0	0	0		
	㉙	生産者積立金からの返還額(県分)	0	0	0	0	0	0		
	㉚	生産者積立金からの返還額(機構分)	0	0	0	0	0	0		
	㉛	特別の積立金から生産者積立準備金への繰入額	27,741,669	0	6,427,529	101,619,764	26,871,590	162,660,552		
	㉜	生産者積立準備金からの返還額(生産者分)	—	—	—	—	—	0		
㉝	生産者積立準備金からの返還額(県分)	—	—	—	—	—	0			
㉞	生産者積立準備金からの返還額(機構分)	—	—	—	—	—	0			
4 期末 残高	⑳	生産者積立金(①+⑧+⑲+㉑+㉒+㉓+㉕+㉖+㉗+㉘+㉙+㉚+㉛)	0	0	0	0	0	0		
	㉟	生産者積立準備金(②+⑦+㉔+㉜+㉝+㉞+㉟)	—	—	—	—	—	272,416,798		
	内 訳	㊱	生産者の負担金充当分	—	—	—	—	—	53,886,320	
		㊲	県の生産者積立助成金充当分	—	—	—	—	—	137,383,678	
		㊳	機構の生産者積立助成金充当分	—	—	—	—	—	81,146,800	



## ⑧ 特別の積立金管理状況

(単位：円)

区 分	黒毛和種	褐毛和種	その他 肉専用種	乳用種	乳用交雑種	合計
期首残高				0		0
増 加	特別納付金			0		0
	受入利息			0		0
	生産者積立金返還金			0		0
	小計			0		0
減 少	普通財産へ繰入			0		0
	生産者積立準備金へ繰入			0		0
	小計			0		0
期末残高				0		0

## ⑨ 償還円滑化積立金管理状況

(単位：円)

区 分	黒毛和種	褐毛和種	その他 肉専用種	乳用種	乳用交雑種	合計
期首残高		128,512		289,502	9,019,106	9,437,120
増 加	生産者積立準備金より繰入	0		0	0	0
	受入利息	175		393	12,254	12,822
	小計	175		393	12,254	12,822
減 少	機構へ償還	0		0	0	0
	全国協会へ償還	0		0	0	0
	小計	0		0	0	0
期末残高		128,687		289,895	9,031,360	9,449,942

⑩ 生産者補給交付金交付状況

(単位：頭、円、人)

区分	保証基準価格の 品種区分		黒毛和種	褐毛和種	その他 肉専用種	乳用種	乳用 交雑種	合計
平成31年 1月1日 ～ 平成31年 3月31日	交付対象 頭数①	販売						
		保留						
		合計						
	②生産者補給金 単価							—
	③生産者補給金 交付額(①×②)							
交付対象生産者数								
平成31年 4月1日 ～ 令和元年 6月30日	交付対象 頭数①	販売			22			22
		保留			27			27
		合計			49			49
	②生産者補給金 単価				33,200			—
	③生産者補給金 交付額(①×②)				1,626,800			1,626,800
交付対象生産者数				9			9	
令和元年 7月1日 ～ 令和元年 9月30日	交付対象 頭数①	販売			1			1
		保留			12			12
		合計			13			13
	②生産者補給金 単価				56,600			—
	③生産者補給金 交付額(①×②)				735,800			735,800
交付対象生産者数				6			6	
令和元年 10月1日 ～ 令和元年 12月31日	交付対象 頭数①	販売			4			4
		保留			16			16
		合計			20			20
	②生産者補給金 単価				25,900			—
	③生産者補給金 交付額(①×②)				518,000			518,000
交付対象生産者数				7			7	
平成31年 令和元年 合計 1月1日 ～ 12月31日	交付対象 頭数	販売			27			27
		保留			55			55
		合計			82			82
	生産者補給金交付額				2,880,600			2,880,600
交付対象生産者数				14			14	

## 2. 肉用牛肥育経営安定交付金制度特別会計 (事業費 3,777,142,620円)

肉用牛肥育経営安定交付金制度の積立金管理者として生産者積立金の徴収及び基金管理の適正な運営を図った。

### (1) 令和元年度(4～3月) 基金管理状況

(旧基金)

令和2年3月31日現在

(単位：円)

区 分		肉専用種	交 雑 種	乳 用 種	計
前期繰越金(A)		359,003,901	839,939,783	2,401,310,946	3,600,254,630
収 入	生産者積立金	0	0	0	0
	機構交付金	0	0	0	0
	受取利息(解約)	819	1,916	5,500	8,235
	計(B)	819	1,916	5,500	8,235
基金累計額(C=A+B)		359,004,720	839,941,699	2,401,316,446	3,600,262,865
支 出	補填金交付額	0	0	0	0
	補填金交付額(機構)	0	0	0	0
	基金返戻金支出	359,003,901	839,939,783	2,401,310,946	3,600,254,630
	一般会計へ繰入	819	1,916	5,500	8,235
	計(D)	359,004,720	839,941,699	2,401,316,446	3,600,262,865
基金残額(C-D)		0	0	0	0

### (2) 令和元年度(4～3月) 基金管理状況

(新制度)

令和2年3月31日現在

(単位：円)

区 分		肉専用種	交 雑 種	乳 用 種	計
前期繰越金(A)		10,936,000	29,325,000	81,515,103	121,776,103
収 入	生産者積立金	52,392,000	127,432,000	287,736,000	467,560,000
	機構交付金	(18,070,279)	(5,970,002)	(506,598,234)	(530,638,515)
	受取利息	272	687	1,018	1,977
	計(B)	70,462,551	133,402,689	794,335,252	998,200,492
基金累計額(C=A+B)		81,398,551	162,727,689	875,850,355	1,119,976,595
支 出	補填金交付額	6,023,583	1,990,021	168,866,151	176,879,755
	補填金交付額(機構)	(18,070,279)	(5,970,002)	(506,598,234)	(530,638,515)
	計(D)	24,093,862	7,960,023	675,464,385	707,518,270
基金残額(C-D)		57,304,689	154,767,666	200,385,970	412,458,325

## 2 家畜衛生対策（継続2）

### 1. 補助事業

#### (1) 家畜生産農場清浄化支援対策事業（国補助・事業費 7,735,779円）

症状が明確でない慢性的な伝染性疾患の増加に加え、清浄化が困難な伝染性疾患の発生がみられることから、生産者サイドでの自主的・組織的な取組により疾病の清浄化及び発生・流行防止対策を推進し、損耗防止を図った。

##### ① ヨーネ病早期清浄化のための自主淘汰の推進

患畜同居牛の自主淘汰促進： 淘汰奨励費交付頭数 12頭（5戸）

##### ② EBL（地方病性牛白血病）の感染拡大防止の推進

・抗体検査：353頭

・放牧場等対策：忌避駆除薬 7農場、防虫ネット 13農場、アブキャップ 6農場

##### ③ BVD-MD（牛ウイルス性下痢・粘膜病）対策

・講習会：1回（R1.9.4 東北町）

・講演内容・講師：

「予防衛生に重要な牛ワクチンの適切な使用法と BVD 対策」

（株）微生物化学研究所営業支援室 テクニカルアドバイザー 函城悦司 氏

「乳房炎ワクチンの最新情報ー乳房炎ワクチンで何が変わる！？ー」

共立製薬（株） 営業企画本部 技術支援課 栗木 健 氏

##### ④ 農場飼養衛生管理強化対策（指定獣医師1名、農場指導 12戸 20回）

#### (2) 牛疾病検査円滑化推進対策事業（国補助・事業費 4,571,692円）

牛海綿状脳症(BSE)の浸潤状況を正確に把握しBSE防疫対策を検証するため、「牛海綿状脳症対策特別措置法」に基づき、96月齢以上の死亡牛及び48月齢以上の起立不能牛等の検査と適正処理の推進を図った。

死亡牛の管理促進費、輸送促進費及び化製処理費の補助： 対象頭数 294頭

#### (3) 獣医師養成確保修学資金貸与事業（国補助・事業費 4,022,264円）

本県の家畜防疫体制の強化を図るため、本事業の普及啓発を図り、獣医師養成確保修学資金を貸与した。

① 修学資金貸与者：4名

② 共同負担者：青森県（3名）、青森県農業共済組合（1名）

#### (4) 豚丹毒予防接種向上対策事業（市町村補助・事業費 41,970円）

豚丹毒の発生を防止することにより養豚産業の安定的な発展を図るため、本会が行う豚丹毒予防接種向上対策事業に要する経費の一部に対し、関係市町村が本会を經由して生産者に補助金を交付した。

① 実施市町村：七戸町

② 補助対象頭数：2,798頭（1頭当り15円）

(5) 家畜防疫互助基金支援事業（機構補助・事業費 1,508,374円）

CSF、ASF、口蹄疫等の海外悪性伝染病が発生した場合の畜産経営への影響を緩和するため、経営再開までに必要な経費を互助補償する仕組みへの加入推進を図り、今般のCSF国内発生に対処するための養豚経営体の追加納付を推進した。

- ① 対象伝染病：口蹄疫、牛疫、牛肺疫、ASF、CSF
- ② 互助金交付対象：
  - ・法に基づき殺処分した農場が経営再開のために家畜を導入した経費
  - ・殺処分した家畜を焼却・埋却するため自ら負担した経費
- ③ 契約締結状況：（元年度末）

区分	契約戸数	契約頭数	積立金額	備考
牛	736	64,139	9,075,025	
豚	31	334,401	13,686,105	
計	767	398,540	22,761,130	

(6) 育成馬等予防接種推進事業（中央畜産会補助・事業費 1,318,003円）

軽種馬生産地における伝染性疾病の発生流行防止のため、育成馬の予防接種の徹底を図った。

- ① 馬インフルエンザ、馬流行性脳炎、破傷風（3種混合）予防接種 328頭
- ② 馬インフルエンザ予防接種 43頭
- ③ 馬日本脳炎予防接種 2頭

(7) 家畜防疫・衛生指導対策事業（中央畜産会助成・事業費 5,544,834円）

地域における家畜伝染病の早期撲滅・まん延防止のため、防疫演習等の活動を通じて生産者等との地域一体的取組みを促進する。農場HACCP認証取得に係る構築指導を実施するとともに、既認証農場に対する内部検証等のフォローアップを行った。

- ① 地域自衛防疫取組促進：事業推進検討会等開催 6回
- ② 地域自衛防疫活動推進：
  - 防疫演習 3地域（R1.10.2 弘前市、R1.10.30 むつ市、R1.10.31 青森市）、防疫研修会 2回
  - ・豚コレラ防疫研修会（R1.9.6 十和田市）
    - 「豚コレラの発生状況と対策」（青森県畜産課）、「県内の野生イノシシ目撃情報」（青森県自然保護課）、「イノシシの生態から考える豚コレラ対策」（宇都宮大学・小寺准教授）
  - ・青森県CSF防疫研修会（R2.1.29 八戸市）
    - 「CSF等発生予防対策-飼養衛生管理基準再点検及び岐阜県から学ぶバイオセキュリティ」（日本養豚開業獣医師協会・呉代表）
- ③ 馬伝染性貧血自衛検査：競馬場入厩馬の自衛検査 8戸 28頭
- ④ 地域農場HACCP認証支援
  - ・農場HACCP認証取得に係る構築指導：4戸（肉用牛 1戸、養豚 1戸、養鶏 2戸）
  - ・農場HACCP普及推進協議会：1回 地域取組活動：講習会 1回 意見交換会：1回

(8) ASF侵入防止緊急支援事業（アフリカ豚コレラ侵入防止緊急支援事業）

（機構補助・事業費 5,934,024円）

ASF（アフリカ豚熱）が国内に侵入した場合であっても養豚農場への侵入を防止できる体制を

確保するため、農場に野生動物侵入防止柵を整備した。

- ・事業取組主体：青森県アフリカ豚コレラ侵入防止対策推進協議会
- ・計画承認農場：22経営体 36農場
- ・本年度事業完了：1経営体 1農場

(9) C S F 侵入防止対策事業（県・市町村補助・事業費 4,642,599円）

農畜産業振興機構のA S F 侵入防止緊急支援事業を補完する県及び市町村補助事業により、養豚農場に野生動物侵入防止用の柵を整備した。

- ・補助実施団体（県、8市町）：  
青森県、八戸市、十和田市、三沢市、三戸町、七戸町、六戸町、横浜町、鱒ヶ沢町

## 2. 受託事業

(1) 馬飼養衛生管理特別対策事業（中央畜産会委託・事業費 992,853円）

馬の生産、流通の広域化等により伝染性疾病の侵入、流行の危険性も大きいことから、競走馬以外の馬の飼養衛生に関する講習会の開催、基礎調査等を実施し馬衛生管理の向上を図った。

- ① 地域馬飼養衛生管理体制整備委員会開催： 1回（R1.7.31 青森市）
- ② 馬飼養衛生管理技術地方講習会開催： 1回（R1.11.15 十和田市）  
講師：NOSAIみなみ北海道 日高支所 荒川 雄季 氏  
講演：「北海道日高管内における馬ローソニア症への対策」について
- ③ 馬獣医療実態調査： 4戸
- ④ 馬飼養衛生基礎技術実習：1回（R1.11.2 十和田市）  
講師：青森県営農大学校 佐藤 郷子 氏  
講演：「馬臨床実習」について  
講師：イチヤマホースクリニック 一山 雄二郎 氏  
臨床実習：「Wet Lab～頭部・顔面の各種処理～」について

(2) 馬伝染性疾病防疫推進対策事業（中央畜産会委託・事業費 6,154,118円）

乗用馬・農用馬等を対象とした馬インフルエンザワクチン接種及び軽種馬の繁殖牝馬を対象とした馬鼻肺炎ワクチン接種の推進並びに感染症対策の普及啓発の検討を行った。

- ① 検討会の開催： 1回
- ② 馬インフルエンザ予防接種： 128頭（農用馬 0頭、乗用馬81頭、その他関連馬 47頭）
- ③ 馬鼻肺炎予防接種：生ワクチン 223頭、不活化ワクチン 51頭

(3) 野生獣衛生体制整備推進確立対策事業（家畜衛生対策推進協議会委託・事業費 1,296,675円）

野生獣被害低減対策支援として、県内畜産及び野生獣関係団体等との連携体制を整備し、捕獲野生獣の衛生検査を実施した。

- ① 地域衛生技術連絡協議会：委員会 2回（R1.10.15 八戸市、R2.2.23 新郷村）
- ② 野生獣の衛生対策推進講習会：1回（R1.10.25 八戸市）
  - ・講演「青森県内の野生獣（ニホンジカとイノシシ）の目撃情報等について」  
講師：青森県環境生活部 自然保護課 技師 張山 樹 氏
  - ・講演「青森県内における野生鳥獣による農作物被害と対策について」

講師：青森県農林水産部 食の安全・安心推進課 総括主幹 阿保 静孝 氏  
・講演「シカとイノシシは、何故こんなに増えたのか？対策と利用は？」

講師：北里大学 副学長・獣医学部長（獣医衛生学研究室教授）高井 伸二 氏

③ 野生獣衛生実態調査：ニホンジカ 6頭

(4) 畜産GAP普及推進事業（中央畜産会委託・事業費 1,007,845円）

日本版畜産GAPの認証取得、普及推進に係る指導員を育成し、畜産GAPの拡大を推進した。

① 指導員育成研修会受講：10名

### 3. 協会単独事業（自主事業）

(1) 自衛防疫強化対策事業（事業費 447,800円）

最近における家畜の飼養衛生の実態を踏まえ、自衛防疫体制の確立と自衛防疫事業の効率的な推進を図った。

① 事業推進会議 運営協議会 1回（R2.2.13 青森市）

県推進会議 1回（R1.7.19 青森市）、地域推進会議 5地区

(2) 自主防疫推進事業（予防接種事業）（事業費 58,338,378円）

家畜伝染病の発生・流行の防止のため、国・県の指導のもとに、生産者・市町村関係団体及び地区家畜衛生推進協議会による防疫体制の強化を図りながら、指定獣医師による家畜伝染病予防接種事業の円滑な推進を図った。（実績頭羽数：付表のとおり）

(3) 総合指導事業（事業費 618,268円）

家畜の疾病が複雑多様化していることから、地域で抱えている家畜衛生対策の課題解決に必要な事業への助成並びに指定獣医師の技術向上等を図った。

① 家畜防疫地域活性化促進事業 2地区実施

（東青地区）産業動物獣医療安定確保対策事業

獣医師の定期的な肉用牛飼養農家への巡回により、治療・繁殖検査等の診療機会の充実を図った。

（むつ地区）ミルクシステム点検事業

正しい搾乳技術とミルクシステムの点検を促進し、乳質の向上と乳房炎の発生を予防し、酪農経営の安定を図った。 8戸

② 研修・広報事業

ア 地区研修会等開催状況 開催協議会： 5地区、開催回数：5回

③ 家畜衛生功労者表彰

ア 表彰規程第2条第1項（生産者等）： 3名（三八、むつ、津軽）

イ 表彰規程第2条第2項（指導者等）： 1名（東青）

(4) 自衛防疫指導事業（事業費 3,783,000円）

地区家畜衛生推進協議会が行う自衛防疫関連事業及び研修広報事業等について、寄託金を財源として事業の円滑な推進を図った。（5地区）

(5) 家畜防疫互助推進事業（事業費 241,770円）

家畜防疫互助基金造成等支援事業の推進を補完した。

(6) 死亡牛処理管理促進事業（事業費 475,813円）

死亡牛処理に係る産業廃棄物処理票（マニフェスト）の保管・管理等の適正化を促進することにより、死亡牛処理の円滑な推進を図った。（取扱頭数 2,662頭）



**付 表**

(1) 自主防疫推進事業実績（令和元年度）

① 家畜伝染病予防接種実績頭数

(単位：円/頭・羽)

区 分	元年度 計画頭数	元年度 実績頭数	地区協議会別実績頭数					
			東 青	三 八	上十三	む つ	津 軽	
<b>(1) 補助等事業</b>								
馬	馬インフル・脳炎・破傷風(混)	260	328	協会直接事業				
	馬インフルエンザ(不)	20	43					
	日本脳炎(不)	10	2					
	馬鼻肺炎(不)	50	51					
	馬鼻肺炎(生)	220	223					
	馬インフルエンザ(不・自衛防)	130	128					
<b>(2) 協会事業</b>								
豚	豚丹毒(生20ml)	12,600	17,622		837	14,073		2,712
	豚丹毒(生50ml)	19,000	19,117		11,819	7,298		
	豚丹毒(不50ml)	6,000	6,000		6,000			
	日本脳炎(生)	700	619			619		
	日本脳炎・豚パルボ混合(生)	0	200			200		
牛	牛アカバネ病	7,100	7,199	169	1,545	3,637	1,310	538
	牛伝染性鼻気管炎5種混(生)	5,360	8,237	221	772	6,354	708	182
	牛伝染性鼻気管炎6種混(生・不)	180	271	70	12	68	70	51
	牛伝染性鼻気管炎(5種)・牛ヘモフィルス(混合)5Hs	6,870	4,381	75	1,277	1,479	1,026	524
	牛ヘモフィルス感染症	0	4,716	167	707	3,023	671	148
	牛クロストリジウム感染症(5種混)	6,120	6,334	226	905	3,098	1,650	455
	牛下痢5種混合(不)	85	123	76		1		46
馬	馬インフル・流脳・破傷風(混)	110	141	協会直接事業				
	馬インフルエンザ(不)	15	18					
	日本脳炎(不)	45	47					
	馬鼻肺炎(生)	0	0					
鶏	ニューカッスル病(ND)	64,000	63,000		1,000			62,000
	ニューカッスル病・IB(混)	58,000	59,000	4,000				55,000